

障害者就業・生活支援センターにおける精神障がい者のアセスメントに関する実証的研究：
社会福祉実践におけるアセスメントモデルの研究開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 青山, 貴彦 メールアドレス: 所属: 大阪市立大学
URL	https://doi.org/10.24544/ocu.20190605-004

氏 名 青山 貴彦

学 位 の 種 類 博士 (学術)

学 位 授 与 年 月 日 2019 年 3 月 25 日

障害者就業・生活支援センターにおける精神障がい者のアセスメントに関する実証的研究－社会福祉実践におけるアセスメントモデルの研究開発－

学 位 論 文 名 (Empirical Study concerning Assessment for the Mentally Disabled in Employment and Life Support Centers: Research and Development of a Model of Assessment in Social Work Practice)

論文審査委員 主査 岡田 進一

副査 大西 次郎

副査 所 道彦

論文内容の要旨

本申請論文は、障害者就業・生活支援センター職員が行うアセスメントに焦点をあて、その内容や重要項目等について量的研究法を用いて明らかにしている。具体的には、職員が、どのような内容のアセスメント実践活動を行い、また、適切なアセスメント実践活動を行うために、どのような個人要因及び環境要因を整えていかなければならないのかを明らかにしている。そして、その調査結果に基づいて、障害者就業・生活支援センターの職員が行うアセスメント実践活動におけるモデル構築を行い、また、アセスメント力を向上させるための条件について具体的な提言を行っている。本論文は、序章、第1章から第5章、終章で構成されている。序章においては、研究背景が述べられるとともに、本研究で重要となる主要概念に関する概念整理と定義づけが行われている。第1章では、就業・生活支援センターについての現状分析が行われ、また、センター職員によるアセスメント実践活動や実務に関する文献研究がなされている。第2章では、センター職員が行う職業準備や生活支援に関するアセスメント実践活動についての質問項目が設定され、探索的因子分析により、7つの因子が抽出された。本章では、精神障がい者に対する職業準備や生活支援に関するアセスメント実践活動の基本構造が明らかにされた。第3章では、第2章で得られた結果に基づき、再度の調査がなされ、アセスメント実践活動に関する基本構造の精緻化がなされている。まず、探索的な因子分析がなされ、第2章で明らかとなった構造を、異なるサンプルで確認を行い、また、確証的因子分析で、最終的なアセスメント実践活動の構造の確認が行われた。そして、センター職員が行うアセスメント実践活動の構造が確定し、アセスメント実践活動に関するモデルの提示がなされた。第4章では、個人特性とアセスメ

メント実践活動との関連性を明らかにするために共分散構造分析が行われている。分析の結果、構成した因果モデルは一定の適合度を示した。そして、関連する個人特性では、批判的思考態度がアセスメント実践活動に強く影響を与えていることが明らかとなった。第5章では、個人要因及び環境要因とアセスメント実践活動との総合的な関連性を明らかにするために共分散構造分析が行われている。分析の結果、第4章と同様の結果となり、批判的思考態度がアセスメント実践活動に大きな影響を与えていることが明らかとなった。これらのことから、アセスメントに関する実践活動の質の向上のためには、センター職員の実践活動に対する内省力や批判的な思考力を高めていくことが非常に重要であることが示唆された。終章においては、研究結果をまとめ、その結果に基づき提言がなされている。本論文における提言として、(1) アセスメントモデルの有効活用、(2) 内省力や批判的な思考力を養う演習型講義の実施、(3) スーパービジョン体制の確立などがあげられている。

論文審査結果の要旨

本申請論文は、障害者就業・生活支援センター職員が行うアセスメント実践活動に関する構造と特色、その関連要因を明らかにしている。そして、アセスメントという概念を用いて、障害者就業・生活支援センター職員が行っている業務内容の分析を行い、また、その関連要因を分析することで、センターにおける業務を改善していくための課題や具体的な方法を明示している。これらの内容は、精神保健福祉領域において先駆的な内容である。また、本研究で得られた知見は、今後の障害者就業・生活支援センター職員を含む社会福祉職が行う実践の向上に役立つ実践的含意を示すものである。以上の点から、本論文は高く評価することができる。慎重に審査を行った結果、本審査委員会は、申請論文が博士（学術）の学位を授与するに値するものであると認めた。